

# 大東文化歴史資料館だより

第8号 2010. 5. 31



川田家寄贈資料



川田清子氏から寄贈資料の説明を受ける  
(川田家にて)



寄贈資料を前に懇談する川田清子氏  
(歴史資料館展示室にて)

## \*大東アーカイブスの動き\*

### ～大東文化学院創設関係者資料について～

2009年10月、川田清子氏より川田瑞穂（雪山）関係資料をご寄贈いただきました。川田家を訪ねて資料を拝見させていただいた後、清子氏に大学へお越しいただき館長等と懇談、展示室や、資料収蔵庫等をご覧いただきました。

雪山は明治～昭和初期を代表する漢学者として知られ、敗戦時には「終戦の詔書」を起草したことで知られています。大東文化学院創設に尽力し、草創期の教育に携わりました。

川田家に残されていた雪山の資料のうち、主として「終戦の詔書」に関わる文書類は国会図書館が所蔵し、現在すでに整理・公開されています。今回、大東アーカイブスが受入した寄贈資料は、文箱や書類棚、杖といった雪山が身の回りに置き愛用した品々や手紙、書類、漢籍等といった雪山の人柄が偲ばれるものが中心となっています。

現在開催中の第9回企画展「草創期の大東漢学」では、寄贈資料の中から硯箱や刻文の印（篆刻）を展示公開しています。



2010年3月末日まで開催された第8回企画展「大東文化協会初代副会頭 小川平吉」では、小川家一族の方々との交流を多く持つことが出来ました。

企画展開催にあたって歴史資料館では、小川平吉の生誕地であり



小川家所蔵写真を前に懇談する小川元夫妻  
(板橋校舎内にて)

また現在も小川家の別荘がある信州富士見町へ調査に赴きました。それが縁となって、現小川家当主である小川元氏へインタビューを行い、目黒のご自宅において今も所蔵されている貴重な資料の数々を拝見させていただくことができました。

なお、鉄道大臣等を歴任した小川平吉の関係資料は、政治史に関わる文書類を中心としてその多くを国会図書館が所蔵し、整理・公開しています。

小川平吉展へは、元氏のほか小川家一族の方々が多く訪れてくださいました。平吉には10人の子があり、その孫たちの多くもまた政財界で活躍しています。お越しいただいた皆様からは貴重な資料をご寄贈いただくとともに、親族ならではの話を伺わせていただきました。ここに記して改めて御礼申し上げます。



小川家（目黒）の所蔵資料

大東アーカイブス 第9回 企画展

草創期の大東漢学

展示期間：平成22年4月5日(月)～平成22年9月30日(木)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)

第9回企画展は、「漢学と大東」をテーマとしています。

大東文化大学の前身、大東文化学院は、大正期に起きた「漢学振興運動」を契機として設立された、漢学を学ぶための学校でした。そのため、創設時は「漢学」を学ぶためのカリキュラムが生まれ、錚々たる一流の漢学者たちから、日本一の漢学教育を受けることができました。そしてまた、学院で学んだ学生たちの多くも、その後の日本の漢学界を担う逸材となりました。

今回の企画展は、こうした大東文化学院と「漢学」とのつながり、創設時に学院の教育に携わった漢学者たちや学生たちの教育研究活動を紹介することを目的としています。当時の人々の漢学に対する気概や、学問に対する真摯な思いを感じていただければ幸いです。



川田瑞穂(雪山)愛用の硯箱・刻印(篆刻)  
(川田清子氏寄贈)

高田陶軒先生の学問

私が先生の著書を購入して耽読したのは、『支那思想の研究』であった。昭和十七年、大東文化学院に入学する一年前である。本書の内容は、天の思想、易の展開、性の問題、学の概念、孔子教と老子道の五篇からなり、「西洋に於ける支那学者の孔老二子観」では、外国の諸学者の学説を紹介され、特にドイツの学者の文献資料を取り上げ、ドイツ留学後の成果が遺憾なく発揮されている。斬新な記述は、従来の支那哲学概論とは異なる魅力があった。



展示室にて公開中の高田真治(陶軒)著「創立四十周年賀詞」

「易の展開」の中で、その第二章は生成と発展と題し、「象象二伝を中心として観たるもの」のなかで、「天地陰陽の消息盈虚が、万物生成の作用を為すものであるが、この天地の流行作用に於て、易経の最も重んずる所は、その剛健中正にして已まざる点に在るのである。天地の作用を単なる機械的なものと見ず、又老子の思想の如く柔弱虚静的なものと見ないで、恒久に已まざる所の剛健正大的方面を主として観るのである」と解説される。

また従来、十翼は孔子の作として、誰も疑うものがなかったが、宋代の欧陽脩が『易童子問』を著し、これを否定してから、今日では通説となった。しかし、先生は安易に賛同されず、「たとえ十翼が孔子自ら筆を下して作ったものでないとしても十翼は孔子門流、特に子思・孟子の学派の手によって成り、その中には孔子の思想が含有せられているものとみてさしつかえないであろう」とされる。もっとも、明の来知徳・何楷や、清朝の顧炎武らも、欧陽脩の見解を全く無視しているので、当然であろう。岩波文庫本の『易経』は、後藤基巳氏との共著であるが、その解説は先生が執筆されたものである。

大東文化大学で『易経』を講義された先生は、魏の王弼・韓康伯が著した謂わゆる王・韓注をテキストに用いられたという。また、その後は、中国思想史を担当され、宋学に就いて講義され、主に程明道(名は顛、伊川の兄)を取り上げられたようである。

つぎに、先生の『詩経』の解釈は、古注といわれる鄭玄の解釈と、新注といわれる朱熹の解釈を折中されるほか、清朝の学者の新解釈も取り入れているが、『詩経』を経学の立場から解釈された。したがって、『詩経』を純文学の観点から理解すべきであると主張する研究者は、これには批判的とならざるを得ない。かつて、観濤猪口篤志先生とこの書物につき語ったとき、方玉潤の『詩経原始』や、龔橙の『詩本誼』、さらにグラネの『中国古代の祭礼と歌謡』のように、文学の観点から『詩経』を理解される猪口先生は、経学的立場から解釈する方法については、これを全く評価されなかった。しかし、博引旁証、詳細に諸説を紹介されたこの書物は、実に参考となり、晩年の精魂を尽された力作は、高く評価されるべきであろう。学者にはそれぞれ学問の立場があり、一概には断定できないと思われる。

われわれは不思議なことに、大東文化学院で三人の碩学に『論語』の講義を受けた。最初は東洋天文学史の研究で著名な飯島忠夫先生であったが、七十歳を迎えた先生は、『礼記』に「丈夫七十にして仕を致す」とあるので退職するといわれ、信州松代に隠棲された。つぎに素軒藤塚郷先生が担当され、その名講義には感動した。「吾は点也てんやに与くみせん」と読まれた先進篇の一文を、先生は最も好きだと言われた。そして、戦後、復学して陶軒高田真治先生から『論語』の講義を受けたのである。実に異常な時代の体験であったといえよう。

(大東文化歴史資料館運営委員・元中国文学科教授 濱 久雄)

## 第1回座談会「大東文化学院本科第20期生 在学当時の思い出を語る」

2009（平成21）年10月22日、歴史資料館主催の第1回座談会が開催されました。座談会は大東文化学園の歴史を後世に伝え、モノだけでなく口述記録を含めて各種資料を残していくことを目的としています。今回の座談会に参加いただいたのは、大東文化学院本科第20期生である小川秀男氏、鈴木良雄氏、馬場武次郎氏、濱久雄氏の4名の方々です。

第20期生は、戦中の昭和18年に入学し、戦時非常措置により在学中は戦時体制下のために勉強だけに打ち込むことは出来ず、浦賀ドッグ等での勤労働員も余儀なくされました。

しかし、座談会での各氏からは、そういった特殊で過酷な状況下であっても向学心やユーモアを決して忘れず、学院での生活を謳歌された様子が口々に語られました。そういった時代を共に経験したからこそ、60年以上を経ても変わらない強い絆で結ばれた友情を今に培っていらっしやるようでした。

4氏からは、在学時代の様子を自由にお話いただきましたが、大東での漢学授業のこと、当時教鞭をとっていらした錚々たる先生方のこと、自学自修の精神、戦時体制下での勤労働員活動やそこでの生活について、同期入学生たちのエピソード等が主だった話題となりました。今も大切に保管されている貴重な資料も沢山お持ちいただき、教科書、出征時の寄せ書きされた国旗、写真等も多く見せていただき、それらの一部をご寄贈いただきました。

会話の端々より学院時代の方々に通ずる高い教養、特に漢学に関する造詣の深さが窺われました。時代の逆境に甘んじず、学問に真摯に打ち込んだお話が非常に印象的でした。

（大東文化歴史資料館 浅沼薫奈）



左より、濱久雄氏、小川秀男氏、鈴木良雄氏、馬場武次郎氏。出征時寄書（小川秀男氏蔵）を手に。

### 学園関係者インタビュー・・・

## 大東文化大学体育連合会「女子部々歌」の創作について

2009年12月6日、杜の都仙台に佐藤美和子氏を訪ねた。佐藤氏は、大東文化大学第23期生である。

大学進学を機に仙台から上京し、文学部日本文学科に籍を置きつつ体育会の活動も活発に行っていた佐藤氏は、現在もその時の多くの仲間たちと交流がある一方、青桐会宮城県前支部長も務め、息子さんもまた大東文化大学に進学したという“大東一家”の方である。

“スポーツの大東”の時代只中に在籍した佐藤氏はアーチェリー部に所属していたところ、あるときスケート部顧問の加藤先生から「女子部」の歌をつくってみたら？と声をかけられた。それがきっかけとなり、弓道部の友人たちとともに「女子部々歌」の歌詞を考えることになったという。「投げ打ち踊る乙女達 走り滑る乙女達」というスポーツの“動き”を取り入れたオリジナルティーあふれる歌詞は、加藤先生の娘さんが作曲したメロディにのせて、池袋のロサ会館にて披露された。昭和48年頃のことだったという。

歌詞を仲間たちで考えているときに「将来このことで取材があるかもね」と友人たちと冗談を言っていたら本当になったと笑いながら語る佐藤氏は、快活な文武両道の大東精神を持った方だった。佐藤氏からは大学合格通知や入学時の資料をはじめ、成績通知、教育実習の記録、父兄会名簿、授業料の振込み領収書や当時の健康診断記録まで、長年にわたって大切に保管されていた思い出の品々をご寄贈いただいた。また、多くのご友人のお名前をあげてご紹介くださるなど、引き続き大東スポーツの歴史を辿るための便宜も図ってくださった。この場を借りて、改めて御礼申し上げたい。

（大東文化歴史資料館 浅沼薫奈）



佐藤美和子氏寄贈資料

### <資料寄贈ご協力のお願い>

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）では、学園に関わる資料を広く収集しています。教科書・講義ノートのほか、写真・映像、機関紙・新聞など、ご提供いただけるものや情報がありましたら、お気軽にご連絡ください。ご協力を宜しくお願いいたします。

## 『大東文化大学百年史』編纂準備委員会の設置に向けて

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）は、平成18（2006）年4月に設置され、本年で開設5年目を迎えている。この間、本資料館では、大学・学園の歴史情報である関係資料の収集・整理・保管等に着手し、また、運営委員会のもとに置かれた年史編纂部会・展示部会を通じて百年史編纂事前研究会の開催（第3回）、自校史教育としての「現代の大学」の開講（4年目）、前・後期2回の企画展の展示（第9回）などの活動を積み上げてきた。こうした経緯を踏まえ、平成21（2009）年12月に開催された運営委員会において、「百年史編纂体制」について審議し、編纂準備委員会を早急に立ち上げていく方向で合意した。これに基づき、本資料館では、山崎俊次館長、荒井明夫委員を中心として編纂準備委員会の設置に向けた要望書を作成し、理事長・学長宛に提出する運びとなった。

この要望書は、『大東文化大学百年史』（仮称）編纂に向けての提案」と題するもので、百年史編纂の意義について、（1）大学の個性の確認、（2）「アカウンタビリティ」への倫理的社会的要求の高まり、（3）「大学評価」における不可欠な事項として「大学沿革史の編纂」が項目化されたこと、（4）「情報公開法」への対応、（5）自校史教育への活用などの観点から明らかにし、編纂準備委員会の設置を提案するとともに、それらの体制をサポートする人的配置の要望をまとめたものであった。

本学においては、すでに平成20（2008）年9月に発表された『大東文化学園中期経営計画』において、「建学の精神」を確認することが、ことのほか重要であるという現代的意義について詳細に述べた後、次のように百年史編纂の意義について指摘している。

「本学園は、2023年に創立百周年を迎える。この機会にあらためて『百年史編纂体制』を本格的に設置し、『建学の精神』を深めるべきである。他大学の百年史編纂に要する時間をみると15年程度の時間が必要とされているケースが一般的である。2008年9月に創立85周年を迎えた本学は、今まさに百年史編纂に取り掛かるべき時期にある。」

これをうけて、今まさに百年史編纂事業の準備段階に差し掛かる時期であると認識し、運営委員会の一員として事業を推進していきたいものである。

（大東文化歴史資料館運営委員・東洋研究所教授 兵頭 徹）

## 【大東アーカイブス活動記録】（2009年10月～2010年3月）

- |   |  |
|---|--|
| 10. 1 企画展入替作業・チラシ送付（～2日）                                    | 12. 10 歴史資料館運営委員会会議  |
| 10. 5 第8回企画展「大東文化協会初代副会頭 小川平吉」公開                            | 12. 18 小川元氏ご自宅を訪問、所蔵資料調査<br>小川氏より小川平吉関係資料借用                            |
| 10. 14 全国大学史資料協議会全国大会参加<br>（於：國學院大学及国文学資料館、～16日）            | 1. 8 尾原玲子氏、小川かずこ氏来館<br>尾原氏より小川平吉関係資料受贈                                 |
| 10. 19 金山弘通氏（一高職員）より資料受贈                                    | 1. 12 全国大学史展「日本の大学 ―その設立と社会―」開催に<br>あたり雑誌『大東文化』貸し出し<br>（1月15日～2月14日開催） |
| 10. 20 歴史資料館運営委員会会議   | 1. 13 田中稔氏（大東文化学院第19期生）より資料受贈  |
| 10. 22 第1回座談会（大東文化学院第20期生）<br>小川秀男氏、鈴木良雄氏、馬場武次郎氏、濱久雄氏より資料受贈 | 1. 28 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会・研究会参加<br>（於：明治大学）                            |
| 10. 23 川田清子氏来館<br>川田氏より川田瑞穂（雪山）関係資料受贈                       | 1. 29 「歴史資料館利用案内」配布  |
| 10. 29 小川元氏を訪問（於：文化服装博物館）、インタビュー                            | 2. 4 堤京子氏、原科節子氏、前田智子氏来館<br>堤氏より小川平吉関係資料受贈                              |
| 11. 4 小川元氏夫妻来館<br>小川氏より小川平吉関係資料（写真）借用                       | 3. 3 宮瀧交二氏（英米文学科教員）より資料受贈  |
| 11. 30 ニュースレター「大東文化歴史資料館だより」vol.7 発行<br>歴史資料館合同部会会議         | 3. 15 歴史資料館合同部会会議<br>大木遠吉家より資料受贈                                       |
| 12. 3 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会・研究会参加<br>（於：横浜開港資料館）              | 3. 18 大学史資料協議会幹事校会・研究会参加<br>（於：武蔵野美術大学）                                |
| 12. 5 大学史研究会大学史セミナー参加（於：東北大学）                               | 3. 26 小川元氏夫妻来館   |
| 12. 6 佐藤美和子氏（大東文化大学第23期生）インタビュー<br>（於：仙台）<br>佐藤氏より資料受贈      | 3. 31 第8回企画展公開終了   |